

シマアオジの今 2019

～サロベツ報告と国際的な保全活動～

2019年10月5日(土) 15:00-17:00

サロベツ湿原センター 天塩郡豊富町上サロベツ 8662

主催 環境省北海道地方環境事務所 協賛 北海道新聞野生生物基金
協力 日本野鳥の会 日本野鳥の会道北支部

開会

15:00

挨拶 稚内自然保護官事務所首席自然保護官 有山義昭

講演

15:05-15:50 (質疑応答 5分)

・シマアオジ保全に向けた国際的な取り組み

シンバ・チャン (バードライフ・インターナショナル)

15:50-16:25 (質疑応答 5分)

・サロベツとサハリンにおけるシマアオジの繁殖状況

長谷部真 (NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク)

休憩

16:25-16:30

対談

16:30-17:00

進行 有山義昭 (稚内自然保護官事務所首席自然保護官)

対談者: シンバ・チャン 長谷部真

閉会 17:00

講演要旨

シマアオジ保全に向けた国際的な取り組み

シンバ・チャン（バードライフインターナショナル）

2017年にシマアオジがIUCNレッドリストで絶滅危惧IA類に掲載されたように、東アジアの小型渡り鳥はかつてない脅威にさらされている。2015年に北東アジアの陸鳥モニタリングスキームがスタートし、2016年からはシマアオジの国際保全活動計画の編集が進められている（2020年、昆明の生物多様性条約締約国会議で公表予定）。

ロシアでは2018年1-2月に全国鳥類会議が開催され、シマアオジ保全に向けた決議が採択された。ワークショップでは、保全に向けた協力や、ロシア・モンゴル・日本のシマアオジ繁殖個体群に関する遺伝子解析の進め方について検討を行った。

香港では中国南部を中心に普及啓発活動が進められ、野鳥の食用消費を止める活動や野生生物に配慮した環境保全型農業が行われている。香港観鳥会は2018年をシマアオジ・イヤーとして様々な普及啓発イベントを実施した。

2018年夏には、ロシア、モンゴル、また北海道で、野外調査及び渡りの調査を実施し、サハリンでは17羽のシマアオジを捕獲し、カラー標識を施した後に放鳥した。多くの捕獲個体のDNAサンプルを採取し、ジオロケーターを装着した。日本でも北海道で標識調査が行われた。

2018年、バンクーバーの国際鳥類学会ではシマアオジ会合に中国が初めて参加し、シマアオジの保全及び野外調査の開始に向けて検討を行った。また、中国の研究者は、シマアオジの遺伝子解析の進め方について、2月のロシア会議での検討内容に同意した。

2019年からシマアオジの越冬地域での活動を開始した。2月下旬にはヤンゴンでミャンマー国内向けのワークショップを開催し、政府機関、大学、NGOから33名が参加した。ミャンマー中部では放生会（仏教徒が功德を積むためにカゴの鳥を購入し、放鳥する）のための狩猟が行われていることが報告され、学生が市場モニタリングを開始する予定となっている。同様のワークショップをタイとカンボジアで9月8日及び11日に開催した。

サハリンでは2017年から2019年にかけて、計50羽のシマアオジにカラー標識を行い、DNAサンプルを採取した。一方、2018年にジオロケーターを装着した個体は、確認・捕獲できなかった（ロシア・ドイツの研究者によるアムール地域・バイカル地域の調査では3個体が再捕獲され、ミャンマーへの移動が確認されている）。2017年と18年に採取したDNAサンプルでは、サハリンと日本のシマアオジの間に遺伝的差異は認められなかった。

2019年8月（9~11日）にロシア、モンゴル、日本、香港の研究者チームは長春で開催された中国鳥類学会議に参加し、中国の鳥類研究者とシマアオジの調査及び保全に係る協力について検討を進めた。黒竜江省の標識研究員からは、ホオジロ類の標識データで他国と同様の減少が見られるとの報告があった。中国政府関係者や研究者は、シマアオジや他のホオジロ類に関して、関係各国の協力や共同調査を進めることに前向きであった。

サロベツとサハリンにおけるシマアオジの繁殖状況

長谷部真

(NPO 法人サロベツ・エコ・ネットワーク)

2019年のサロベツにおけるシマアオジの繁殖つがい(雄のさえずり位置)数は11つがいで、2018年の25つがいより大幅に減少した(環境省・日本野鳥の会事業)。湿原の水不足が繁殖に影響を与えた可能性があるが、つがい数は2018年に引き続いての2年連続の減少となった。2019年は餌運びが確認されたが、さえずりがほとんど聞かれなかった。木道周辺では繁殖期後半に姿が確認されなくなり、幼鳥の姿が確認されなかったため、繁殖状況の悪化が懸念された。一方で、一時的であるが生息が再確認された場所があるので、今後の繁殖が期待される。繁殖環境の改善のために、シマアオジ繁殖地内にある繁殖に適さないササ群落の刈り取りを行う予定である。

2019年に日口合同調査として、サハリンでシマアオジの繁殖状況調査を行った(バードライフインターナショナル事業)。中部のポロナイスク・ティモフスク、北部のバイカル湾でシマアオジを確認した。繁殖地の環境は耕作放棄地・中間湿原だった。バイカル湾では、約10つがいを確認し、餌運びも見られたが、サロベツと同様にさえずりがあまり確認されなかった。ティモフスクとバイカル湾では、1-2年前と比較して、生息確認されなくなった場所があったため、サロベツと同様に繁殖数は減少していることが示唆された。しかしながら、サハリンには同様の未確認の繁殖環境が無数にあると考えられるため、つがい数は相当残っているものと考えられる。

今後もサロベツでは繁殖状況調査を継続し、ササ刈による繁殖環境の改善、保護区外にあるシマアオジ生息地の土地購入等の保全活動を行う予定である。また、普及啓発活動として、国際的には香港から講師を招くことや中国で開催される国際会議に参加することを計画している。国内では鳥学会における自由集会の開催、サロベツ湿原センターの展示の拡充、バードフェスティバルにおける出展などを計画している。